

『新型コロナウイルス感染症流行前後の 川崎病の臨床的特徴の検討』 に対するご協力をお願い

研究の目的と意義	川崎病は、1967年に川崎富作博士により報告された、乳児に好発する原因不明の全身の炎症性疾患です。世界各国に患者がいますが、東アジアで好発し、特に、我が国が最も多く、年間1万名を超える新規発症者が報告されています。約2%で冠動脈後遺症を残す患者さんがおり、先進国における後天的心疾患の最大の要因とされています。日本では、出生数の減少にも関わらず川崎病の報告数は年々増加の傾向がありましたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行に際し、新規患者数の減少がみられました。 以前より、川崎病は感染症を契機として発症することが推測されており、COVID-19流行に伴う、社会的背景や行動の変化が影響している可能性があります。この疫学的変化の詳細を検討する事は、川崎病の病因を考えるに際しても重要であると考えて、本研究を計画しました。
研究の方法	電子カルテの診療情報より患者さんの治療の情報を収集して、川崎病の新規患者数と年齢分布などを調査します。さらに、COVID-19の前後で3つの時期（流行前(2017年1月～2019年12月)、流行中(2020年1月～2022年12月)、流行後(2023年1月～2025年6月)）に区切り、時期ごとの変化を比較検討します。
対象者	2017年1月～2025年6月の期間に、当院小児科で入院加療を行い、川崎病と診断された患者さん
利用する試料/情報	研究対象者背景 識別コード(各研究対象者に割付けた固有の識別番号)、性別、生年月日、発症年月日、入院年月日、既往歴、家族歴、発症時月齢（生年月日、発症年月日から算出）、乳児(<1歳)・年長児(≥5歳)の割合、不全型の割合、治療開始病日・免疫グロブリン不応率、心後遺症の合併、期間ごとの月別の患者数、割合 血液検査データ 血算：WBC、好中球分画、リンパ球分画、RBC、Hb、Ht、血小板数）血沈 凝固・線溶系：PT-INR、APTT、フィブリノーゲン、FDP、D-dimer 生化学：TP、Alb、TB、DB、AST、ALT、BUN、UA、Cre、ALP、CK、CRP、PCT、フェリチン、NT-Pro BNP、IgG、他。 尿検査：白血球定性、沈査、β 2MG/Cre
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた診療録等
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	日本川崎病学会・学術集会および日本小児科学会学術集会で報告予定です。
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2026年3月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 総合小児科 / 医長 / 福田 清香
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 総合小児科 / 医長 / 福田 清香